

令和4年1月20日

独立行政法人日本学術振興会

第12回（令和3(2021)年度）日本学術振興会 ^{いくし}育志賞の受賞者決定 （18名の優秀な大学院博士後期課程学生に授賞）

独立行政法人日本学術振興会（理事長 里見 進）は、本会に設置されている育志賞選考委員会（委員長 清水 孝雄：国立国際医療研究センタープロジェクト長）の選考に基づき、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生18名を日本学術振興会育志賞受賞者として決定しましたので、お知らせいたします。

<育志賞ウェブサイト： <https://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/index.html>>

1 日本学術振興会 育志賞について

日本学術振興会は、上皇陛下の天皇御即位20年に当たり、社会的に厳しい経済環境の中で、勉学や研究に励んでいる若手研究者を支援・奨励するための事業の資として、平成21年に上皇陛下から御下賜金を賜りました。

このような陛下のお気持ちを受けて、本会では、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生を顕彰することで、その勉学及び研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的として、平成22年度に「日本学術振興会育志賞」を創設し、今回が第12回目となります。

本年は、大学の長及び学術団体（学会）の長から155名の大学院博士課程学生の推薦があり、大学長経験者等の有識者にて構成される選考委員会で厳正な審査が行われ、受賞者18名を決定しました。

2 授賞式等について

令和4年3月1日（火）に日本学士院（東京都台東区上野公園7-32）において、授賞式が行われる予定ですが、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、中止する場合があります。その場合には改めてお知らせいたします。

第12回（令和3（2021）年度）日本学術振興会 育志賞 受賞者一覧

※五十音順、年齢は令和3（2021）年4月1日現在、所属機関は令和3（2021）年5月1日現在

※国籍は日本国籍以外の場合のみ記載

受賞者氏名 (性別)(年齢)(国籍)	所属機関	推薦機関	博士課程の研究テーマ
オオクボ ユウリ 大久保 祐里 (女)(28)	名古屋大学 (理学研究科) (生命理学専攻)	名古屋大学	植物の全身的な窒素吸収を制御するシグナル伝達経路
カナモリ マリコ 金森 万里子 (女)(31)	東京大学 (医学系研究科) (社会医学専攻)	東京大学	農村地域の自殺に関係する社会環境要因の解明と地域活動モデルの構築
カネコ ナオツグ 金子 直嗣 (男)(26)	東京大学 (総合文化研究科) (広域科学専攻)	東京大学	新たな歩行リハビリテーションの開発に向けた歩行の運動観察と運動イメージにおける神経活動の解明
カワバタ コウヘイ 川畑 幸平 (男)(26)	東京大学 (理学系研究科) (物理学専攻)	東京大学	非平衡開放系の対称性とトポロジー
コマツ ミヅカ 小松 瑞果 (女)(25)	神戸大学 (システム情報学研究科) (計算科学専攻)	神戸大学	パラメータ多様体：同定不可能モデルに対する微分代数に基づく解析手法とその展開
サトウ ヨシキ 佐藤 芳樹 (男)(26)	東北大学 (工学研究科) (量子エネルギー工学専攻)	東北大学	特徴的な結晶構造を持つ金属間化合物の単結晶育成と新奇物性
ザン ヨウユアン 張 又源 (女)(26)(中国)	東京大学 (理学系研究科) (化学専攻)	分子科学会	強レーザー場において生成した分子イオンの光励起過程の理論
スガヌマ キイチ 菅沼 起一 (男)(29)	東京藝術大学 (音楽研究科) (音楽文化学専攻)	東京藝術大学	ジローラモ・ダッラ・カーザのディミニュション技法—転換期における対位法理論と音価の変遷—
ターン ユカリ ジェシカ ターン 有加里 ジェシカ (女)(25)	東京大学 (人文社会系研究科) (社会文化研究専攻)	日本社会心理学会	ボランティアのジレンマにおける公平な結果の実現に関する検討

受賞者氏名 (性別)(年齢)(国籍)	所属機関	推薦機関	博士課程の研究テーマ
タテウチ カイ 館内 魁生 (男)(26)	東北大学 (文学研究科) (日本学専攻)	東北大学	日本古代中世移行期における地域間交流と文化変容の考古学的研究
ナガエ マユコ 長江 麻佑子 (女)(26)	名古屋大学 (生命農学研究科) (動物科学専攻)	名古屋大学 日本繁殖生物学会	哺乳類の卵胞発育を制御する脳内メカニズムの解明
ナガカワ ハルキ 長川 遥輝 (男)(25)	東京理科大学 (工学研究科) (工業化学専攻)	東京理科大学	耐光腐食性複合光触媒を用いた太陽光下での効率的な水素生成
ナカニシ トモコ 中西 智子 (女)(32)	京都大学 (医学研究科) (京都大学・マギル大学 ゲノム医学国際連携専攻)	京都大学	ゲノミクスで拓く呼吸器疾患病態解明とその臨床的意義の検討
ナジリ タロウ 野尻 太郎 (男)(26)	東京大学 (農学生命科学研究科) (農学国際専攻)	日本哺乳類学会	超音波器官形成に着目したコウモリ類のエコーロケーションの進化的起源の解明
フジイ ヤスユキ 藤井 靖之 (男)(26)	芝浦工業大学 (理工学研究科) (機能制御システム専攻)	日本農芸化学会	食感覚の機能性への展開:渋味による認知機能向上作用の解明
フジタ キョウヘイ 藤田 恭平 (男)(27)	東京大学 (医学系研究科) (生体物理医学専攻)	東京大学	乳腺腫瘍特異的バイオマーカーとしての α -マンノシダーゼ 2C1 の同定とがん迅速臨床蛍光イメージングの実現
モリ シュンスケ 森 竣祐 (男)(26)	東北大学 (工学研究科) (知能デバイス材料学専攻)	応用物理学会	MnTe 薄膜の多形転移現象とその不揮発性メモリへの展開
ヤスダ マサル 安田 将 (男)(32)	北海道大学 (文学院) (人文学専攻)	日本倫理学会	キケロの政治哲学とその認識論的基礎

「日本学術振興会 育志賞」の概要

—優秀な大学院博士後期課程学生の顕彰・支援—

1. 事業の趣旨

日本学術振興会は、上皇陛下の天皇御即位20年に当たり、社会的に厳しい経済環境の中で、勉学や研究に励んでいる若手研究者を支援・奨励するための事業の資として、平成21年に上皇陛下から御下賜金を賜りました。

このような陛下のお気持ちを受けて、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士後期課程学生を顕彰することで、その勉学及び研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的として、平成22年度に「日本学術振興会 育志賞」を創設しました。

2. 対象分野

人文学、社会科学及び自然科学にわたる全分野

3. 対象者

以下の①②の条件を満たす者を対象とする。

- ① 我が国の大学院博士課程学生（海外からの留学生を含む）であって、令和3（2021）年4月1日において34歳未満の者で、令和3（2021）年5月1日において次の1）から4）のいずれかに該当する者
 - 1）区分制の博士後期課程に在学する者
 - 2）一貫制の博士課程3年次以上の年次に在学する者
 - 3）後期3年のみの博士課程に在学する者
 - 4）医学、歯学、薬学又は獣医学系の4年制博士課程に在学する者
- ② 大学院における学業成績が優秀であり、豊かな人間性を備え、意欲的かつ主体的に勉学及び研究活動に取り組んでいる者

4. 推薦権者

- 1）我が国の大学の長（大学長推薦）
推薦数：人社系、理工系、生物系各1名、その他に分野を問わず1名の計4名まで
- 2）我が国の学術団体（日本学術会議協力学術研究団体に限る）の長（学会長推薦）
推薦数：1名まで

5. 選考方法

推薦のあった候補者について、書類選考により面接選考対象者を決定し、面接選考を経て、日本学術振興会に設置する選考委員会において、受賞者を決定します。

6. 選考基準

学業成績が優秀で、豊かな人間性を備え、意欲的かつ主体的に勉学及び研究活動に取り組んでい

ること。選考に当たっては、本賞の趣旨に鑑み、次の①から③を重視します。

- ① 我が国の学術研究の将来を担う研究者となりうる卓越した能力を有しており、将来学界等への貢献が期待されること
- ② 将来、更なる研究の発展が見込まれ、卓越した研究者に成長していく可能性を有していること
- ③ 経済的に困難な状況や、研究施設が必ずしも十分ではない等の厳しい研究環境の下でも創意工夫を凝らして、主体的に研究を進めていること

※上記に該当する者の例

- 発想・着想、課題設定などにおいて、創造性・独創性が高い研究に主体的に取り組んでいる者
- 当該学問領域や学際領域における重要な基盤となる研究に主体的に取り組んでいる者
- 研究活動に関連する、ユニークな活動に主体的に取り組んでいる者
- 短期的には論文等の成果が出にくい研究に対して、忍耐強く取り組んでいる者

7. 授賞等

授賞数は16名程度とし、受賞者には、賞状、賞牌及び副賞として学業奨励金110万円を贈呈します。

8. 受賞後の取扱い

受賞者は、希望により、所定の申請手続きを経た場合、受賞の翌年度から「日本学術振興会特別研究員（PD）」等に採用され、研究奨励金等（PDの場合：月額36万2千円を予定）が支給されます。

9. 第12回（令和3（2021）年度）日本学術振興会 育志賞 推薦状況

大学長推薦	学会長推薦	計
113名（112名）	50名（63名）	155名（165名）

（ ）内は、前年度の人数

※合計数は、重複推薦を1名として計上

10. 第12回（令和3（2021）年度）日本学術振興会 育志賞 日程

推薦依頼	令和3（2021）年3月16日
推薦書受付	令和3（2021）年5月27日～6月1日
予備選考（書面選考）	令和3（2021）年6月～10月
予備選考（面接選考）	令和3（2021）年11月
選考委員会	令和4（2022）年1月6日
授賞式	令和4（2022）年3月1日

1 1. 賞牌

このメダルの外形は、西洋では「学術」「発明」「知恵」など、日本では「天眼力」「神通力」にたけた鳥と言われているフクロウの卵を表しています。また中央に日本学術振興会のマークである長鳴き鳥を配し、連続模様で「広がり」を表現し、さらなる成長を期待するという趣旨でデザインしました。

(デザイン：東京芸術大学名誉教授 飯野 一朗)



1 2. 日本学術振興会 育志賞 選考委員会委員名簿

令和4年1月現在（敬称略）

	氏名	所属機関・職
委員長	清水 孝雄	国立国際医療研究センタープロジェクト長
	河田 悌一	関西大学東京センター長、 日本私立学校振興・共済事業団前理事長
	田中 明彦	政策研究大学院大学学長
	西澤 直子	石川県立大学学長
	長谷川 眞理子	総合研究大学院大学学長
	花輪 公雄	山形大学理事・副学長
	日比谷 潤子	学校法人聖心女子学院常務理事
	藤巻 朗	名古屋大学副総長、大学院工学研究科教授
	八島 栄次	名古屋大学大学院工学研究科教授